

AURUM®の耐候性

プラスチックは一般に、日光、紫外線に対して特有の劣化現象を起こします。

通常観察されるのは表面層の黄変、主鎖の切断による分子量の低下、架橋、ゲルの生成等々の化学構造変化であり、各種機械特性が低下すると共にクレーズやクラックが発生します。

この耐候性に関する最良の実用評価方法は屋外暴露ですが、気象条件が地理的に異なり日々変化すること、及び評価には長時間を要すること等より、一般には劣化促進の為にウェザーメータが使われます。ウェザーメータはカーボンアークの紫外線とスプレーによって日光と雨の効果を出すもので、この装置による AURUM®の評価結果を表-1に示します。

AURUM®は長時間の暴露後も、機械特性、外観の変化は殆どありません。

表-1: AURUM®の耐候性

[%]

		200 Hrs	500 Hrs	1,000 Hrs
・ 保 持 率	・ 引張強度	100	100	100
	・ 引張破断伸度	90	90	90
	・ 引張弾性率	90	110	100
	・ IZOD衝撃強度 (ノッチ付)	110	90	90
・ 外 観		変化なし	変化なし	変化なし